

# 証券市場新聞

1 第156号

日経平均株価  
2万1646円55銭  
▲139円01銭(前日比)  
TOPIX  
1628.96  
▲13.07(前日比)

2018  
11/26  
月曜日

発行元 ココ・パートナーズ株式会社  
〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心齋橋ビル6C  
TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861  
marketpress.jp



## 独自成長戦略打ち出せるか どうなる?12月ソフトバンクのIPO

### 過去最大の資金調達

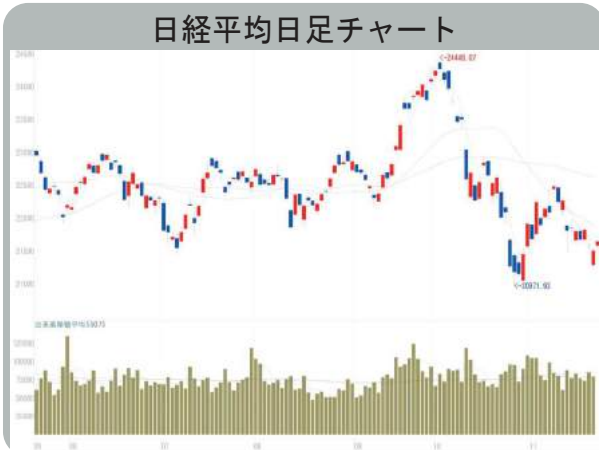
ソフトバンク(9434)が12月19日に東京証券取引所に上場する。現時点での想定価格を元にした時価総額はおよそ7兆1800億円と今年最大規模の公開企業となる。超と1987年に上場したNTT(9432)の公開当時である2兆2000億円を上回り、過去最大規模になる。ソフトバンクグループ(9984)の中核会社として移動/固定通信事業を展開する同社の初値形成は12月相場最大のイベントとなる。



ソフトバンクは12月19日に上場する

ソフトバンクは、国内で米アップル社のiPhoneの取り扱いを開始、ワイモバイルを吸収合併して格安スマホを逸早く展開するなど常に業界ではチャレンジャー的存在となっていた。親会社のソフトバンクグループは今や投資会社としての色彩が強く、日経平均の主要構成銘柄として東京市場ではある意味で特別な存在ながら、子会社のソフトバンクは個人消費者に直結する内需株としての評価になる。

ソフトバンクは、今年6月公開で大型上場と言われたメルカリ(4385)や2015年公開の郵政グループ3社の応募倍率の高さを考慮すれば、ソフトバンクという知名度の高さからも2兆6400億円超という資金調達を懸念する必要はないだろう。



ソフトバンクは携帯電話を展開する通信キャリアとしては顧客数(契約数)でNTTドコモ(9437)、KDDI(9433)に次ぐ3番手ながら、他社に先駆けて国内で米アップル社のiPhoneの取り扱いを開始、ワイモバイルを吸収合併して格安スマホを逸早く展開するなど常に業界ではチャレンジャー的存在となっていた。親会社のソフトバンクグループは今や投資会社としての色彩が強く、日経平均の主要構成銘柄として東京市場ではある意味で特別な存在ながら、子会社のソフトバンクは個人消費者に直結する内需株としての評価になる。

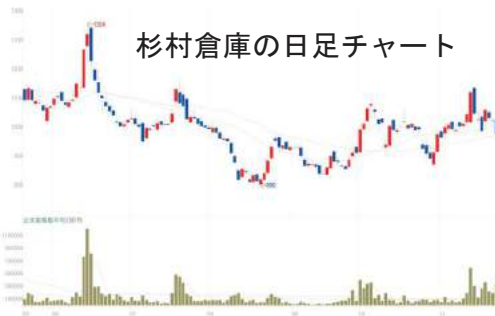
義氏を筆頭にグループ会社の主要役員で大半を占めており、新規公開企業に付きまとう投資ファンドなどによる利益確定売りへの不安はない。業界的には携帯電話料金の値下げ圧力が強いなかで、NTTドコモ(9437)やKDDI(9433)、新規参入を予定している楽天(4755)と異なる独自の成長戦略を打ち出せるかが上場の株価上昇のカギとなりそうだ。

今週の動意銘柄

万博関連銘柄が高い

23日開催地決定前に思惑買い

週明け19日、日本が大阪招致を目指す2025年国際博覧会(万博)の開催地決定が23日に迫るなかで、杉村倉庫(9307)や桜島埠頭(9353)などの関連銘柄が高い最有力候補と見られていたフランスのパリが撤退したこと、大阪の優位性が高まったと見られていたが、ロシアのエカテ



杉村倉庫の日足チャート

買いが入った。

イオンファン月次2桁減

19日、イオンファンタジー(4343)が急落、年初来安値を更新した。10月度の売上概況を発表。全店で前年同月比11・3%減、既存店で11・5%減となったことが嫌気された。前年10

月度はほとんどの週末が雨天であったことに加え、プライズ部門が好調で、遊戯機械が大幅に伸長した。それに対し、今年度は毎週末の好天がアウトドア人気を後押しし、屋内施設への集客が減少、その影響がマイナス5%程度であったものとし、厳しい状況になった。

日産自ゴーン会長逮捕

20日、日産自動車(720)が急落、年初来安値を更新した。東京地検特捜部が役員報酬を事実より約50億円少なく見せ掛けたとして、金融商品取引法違反(有価証券報告書の虚偽記載)の疑いで会長のゴーン容疑者を逮捕したことを嫌気した。同社の代表取締役グレッグ・ケリー容疑者も逮捕さ

れた。同社では会社の資金を私的に支出するなど複数の重大な不正行為もあったことが伝えられており、会長の速やかな解職を取締役に提案するとされており、悲観売りを浴びた。ルノー・日産・三菱自の3社連合の会長を務めるゴーン氏逮捕を受け、三菱自動車(7211)が急落する一方で、トヨタ自動車(7203)が続伸。自動車セクターでリスク回避から資金シフトが起こっている

ハリマ化成G上振れ期待

20日、ハリマ化成グループ(4410)は急反発、5日ぶりに4ケタを回復した。19年3月期第2四半期累計の連結経常利益は計画を上回り、27億3100万円(前年同期比52・5%増)と大幅増益で着地、通期予想の45億円(前期比12・3%増)に対する進捗率は60・7%に達し、収益上振れが期待が強いとの見方があった。

正直いいさんの株で大判小判

22日の東京市場は後場から戻す動きになりました。前日の米国株市場でナスダックとS&Pが上昇したことや円安が追い風になり、ハイテク株を中心に買い先行でスタート、3連休を控え上値の買いは手控えられ、戻り待ちの売りに値を消す場面では押し目買いが入り底堅さを先週は2100円目買いが00円割れし、上値を追う30日のG20退の動きが想定ハリマ化成(4410)やソースネクスト(4344)は弱含みながら底堅く推移。打診買いを入れたジャストプラ(4287)やライフネット(7157)もしつかりの展開で、週明けも中小型の個別物色です。 花咲翁



花咲翁

高島屋値下りトップ

21日、高島屋(8233)が急落、東証全市場で値下がり率トップに立った。

年間配当を34円(前期23円)へ増配の予定で、3・3%の高配当利回りも買い気を誘った。

600億円のユーロ円建転換社債型新株予約権付社債を発行すると発表したことを受け、株式価値希薄化と需給圧迫を懸念する売りがかさんだ。転換価格は2180円で、CB発行による潜在株式は15・75%におよぶ。

# 北部気候チャンピオン賞

## ハリマ化成グループ

### スエーデンのサンパイン社受賞

長谷川吉弘社長（右）  
ステイグソン氏（左）



ローター社から出資するスウェーデンのサンパイン社は、スウェーデン北部エネルギー庁から「2018年北部気候チャンピオン賞」を受賞した。

今回の受賞は松を主原料に製紙用パルプを製造した際に生じる副産物の粗トール油から精製するバイオディーゼル燃料の普及を通じて、二酸化炭素排出量削減に寄与していることが評価された。同社は20年までにトールディーゼルの50%増産を予定しており、気候変動抑制へのさらなる貢献が期待される。

併せてサンパイン社の創業者ラース・ステイグソン氏と研究開発マネージャーのバレリー・ナイデノフ氏は、スウェーデン学位技術者協会から「プールヘム賞」を受賞した。

## 企業レター

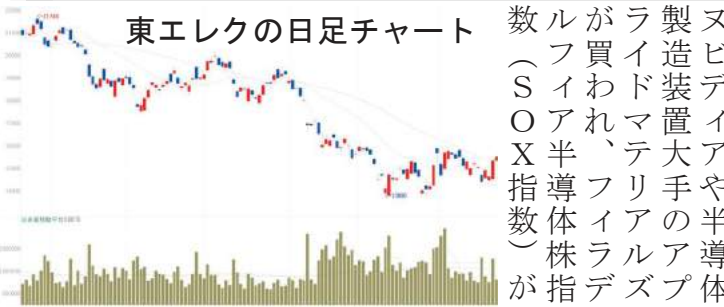
### ハリマ化成グループ

36) など半導体関連株が逆行高。前日の米国株市場で画像処理半導体大手のエ

# 半導体関連逆行高

## SOX指数反発し円高一服も

21日、東京エレクトロニクス(8035)、SCRENG(7735)、イングレス(7735)、ドバンテ(7735)、スト(7735)、SUMC(7735) O(34)



東エレクトロニクスの日足チャート

製造装置大手のアップライドマテリアルズが買われ、フィラデ数(SOX指数)が

プラスで引けたことから、米国関連株見直しの流れが波及、買戻しやリバウンド狙いの資金が向かった。為替が112円70銭台と円高が一服していることも追い風になった。

21日、ケア21(2373)が大幅反発。同株主優待制度の新設を発表した。毎年10月31日現在、100株以上保有の株主に対して一律QUOカード(クオカード)1000円分を贈呈する。

## ケア21は株主優待

## 掉尾の一振

先週の株式市場は日経平均で2万1500円を挟んでの攻防となりました。NY市場が週初から大幅続落となったことで浮上の切っ掛けをつかめない週となりました。この週末は米国では感謝祭。そして翌日はブラック・フライデー、月曜日はサイバーマンデーとなります。

クリスマス商戦の始まりであり、米国では一年で一番の書き入れ時のセールとなります。株式市場では、例年この感謝祭以降からクリスマスラリーが始まり、年末高相場が始まるケースが多いものであり、相場の落ち着きが期待できる訳です。

今週27日(火曜日)は、2016年6月安値から昨年9月安値までの301営業日数に対する対等日柄で、昨年9月安値から301営業日数延長した日柄変化日を迎えます。ここより東京市場も掉尾の一振を期待いたします。

日々勇太郎

## 転ばぬ先のテクニカル

# フォーサイドはS高

週末22日、フォーサイド(2330)

プ収益への貢献を期待した買いを集めた。

## 三菱UFJ米当局が捜査

22日、三菱UFJフィナンシャルグループ(8306)が6日続落。米ニューヨーク・タイムズが北朝鮮をめぐる資金洗浄に関連して、米検察当局の捜査を受けていると報じた。

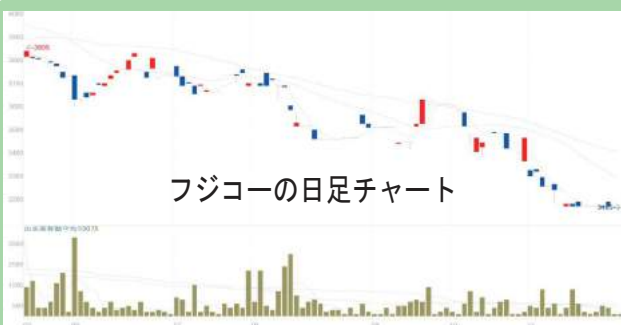
## 今週の動意銘柄

# 全力を使って付加価値創出

## 銘柄探究



記者の目で企業実態を解析



フジコーの連結業績推移 単位：100万円

決算期	売上高	営業利益	純利益
16/3	9,709	▲28	▲219
17/3	8,926	176	179
18/3	9,097	340	285
19/3(予)	9,200	150	180



都市ゴミ焼却炉耐熱フィルター

大型電力貯蔵システムに使用されるNAS電池の電極用フェルトやソーラーパネルの製造工程で使用される特殊断熱フェルトなどエネルギー分野での需要商品を数多く有している。とくにNAS電池の電極用フェルトは高度で精緻な不織布加工特殊技術を駆使、NAS電池の心臓部に利用されており、重要度は極めて高い。

円(前期比1.1%増)、営業利益1億5000万円(同比5.9%減)、純

降の業績拡大へ向けた布石は着々と進んでいる。LTD.については稼働に向けた整備を進めており、来期以降の業績拡大へ向けた布石は着々と進んでいる。

## 耐熱フィルターなど伸びる

フジコー(3515)は、不織布・フェルト総合メーカーとして各種産業資材から消費財まで多岐に亘る分野で製品を供給、工業資材はOA機器用などに加え、環境・エネルギー向けに注力。建装・自動車分野などでも重要な役割を担う。

比5.5%減)、営業損益は4億2100万円の赤字(前年同期1億800万円の赤字)、最終損益は100万円の赤字(前年

**フジコー**  
(3515)

今19年3月期は11月13日に発表された第2四半期累計(4ヶ月)決算で、売上高は41億4400万円(前年同期

## 来期以降に向け布石着々

同期1億1700万円の黒字)だった。東日本大震災の廃棄物処理場向けの土木資材や建装資材、自動車資材の販売が減少した影響がでているが、環境資材では、耐熱フィルター、触媒ロフを中心に販売は好調に推移。エネルギー資材については販売は低調ながら売上総利益率は改善している。

変化にも対応して、持続的発展を遂げられるよう、全力を使って付加価値を創出するを基本方針に、「グローバル展開」、「付加価値の創出」、「生産拠点の整備」、「強固な事業基盤の構築」を重点施策として持続的発展を目指している。今年5月には、韓国での営業活動、市場開拓と購買活動を本格的に行うため、ソウル連絡事務所を現地法人化してFUJICO KOREA CO.; LTD. を設立し、6月から販売活動を開始。また、今年3月に設立したSANWA FELT VIENTIANAMCO, LTD. については稼働に向けた整備を進めており、来期以降の業績拡大へ向けた布石は着々と進んでいる。

利益1億8000万円(同比36.9%減)と

従来見通しを据え置いている。如何なる環境

## 潮流

## 日本株に変化の兆し

## CTAとヘッジFの変調見逃すな！



米国の株式市場が急落しても日本の株式市場の下落は限定的となってきた。

19日の米ダウ平均の終値は395ドル安(1.5%)の2万5017ドルで終えた。翌日の日経平均の終値は238円安(1%)の2万1583円で終えた。この日は一時134円安の2万1687円まで戻す場面があった。米ダウ平均の下落率よりも日経平均の下落率が低い。20日のドル円相場を見ると9時の時点で1ドル=112円45銭だったが、11時には112円65銭まで円安に向かった。CTAによる「円売り・225先物買い」のプログラム売買が継続して入った為、日経平均が前日比134円安(0.6%)まで戻したのである。また、20日の米ダウ平均は551ドル安(2.2%)の2万4465ドルと大幅下落して終えた。翌日の日経平均は米株の急落を受けて誰もが大きく値下がりすると考えただろう。しかし、日経平均の終値は75円安(0.3%)の2万1507円と下げは限定的であった。

この日のドル円相場は9時時点で1ドル=112円67銭で始まり、12時10分には1ドル=112円93銭まで円安が進んだ。CTAが「円売り・225先物買い」のプログラム売買を拡大させたのである。さらに、21日の米ダウ平均はほぼ変わらずの2万4464ドルで終了。

22日の日経平均は139

円高(0.65%)の2万1646円で終えた。この日のドル円相場は9時時点で1ドル=113円で始まり、10時には113円13銭まで円安に振れた。CTAは「円売り・225先物買い」のプログラム売買

を進めた。米株が急落しても日本株はその影響をさほど受けずに済んだ要因はCTAが「円売り・225先物買い」のプログラム売買を入れたことだ。今までの日本株であれば米株の下落以上に下げ幅を拡大するケースが多かった。それはCTAが「円買い・225先物売り」のプログラム売買を拡大させるからだ。

もう一つ日本株の下げが限定的になっている要因がある。それは、バークレーズによるTOPIX先物の売り越しが減少しているからだ。今までバークレーズは日々TOPIX先物を1800枚程度売り越ししてきた。その売り越しが1000枚を割れ、時には買い越しに転じる日も見受けられた。CTAとヘッジファンドの運用の変化を見逃してはならない。

潮流銘柄はand factory (7035)、メディアフラッグ(6067)、ジャパンエレベーターSHD(6544)。

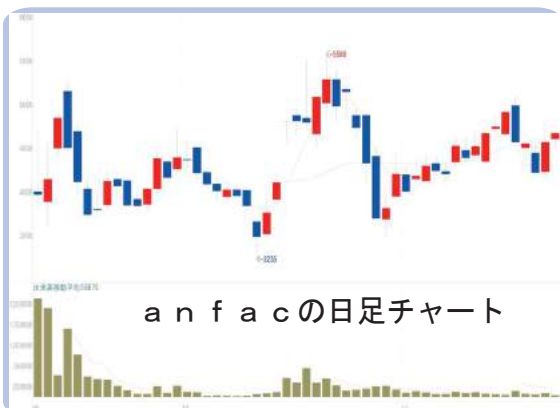
ら優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp



岡山 憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から

米株急落も下落は限定的



# 年末相場上昇の条件

## 今年3度目のショック安

国際テクニカルアナリスト  
武蔵 宗久 氏

米国株式市場は今年3度目のショック安に見舞われ、世界の市場が波乱状況に陥った。第1回目の米国市場のショック安は、2月5日にNYダウが1日で1175ドル安となり、過去最大の下落幅を記録した。そして2回目は7月26日にナスダック市場のフェイスブック株が急落し1日で時価総額が13兆円減少した。そして3回目は11月19日にアップル株が急落し、他のIT関連銘柄に波及し、NYダウは2日で1000ドル近く急落した。

過去二回の急落場面の後、NYダウはいずれも日柄をかけずに急上昇していることから、今回も調整期間は短くなる可能性が高い。今年の世界の株式市場を牽引してきた、ナスダック市場の3銘柄の株価を検証すると、アマゾン株は終値ベースで今年の高値2039ドルから直近の1495ドルまで約27%下落した。アルファベット株は1285ドルから1025ドルまで約20%下落した。そしてアップル株は232ドルから176ドルまで約24%下落した。今後とも3銘柄の株価動向には目を離せない。

また年末相場が上昇する条件として、25日移動平均線に注目している。10月10日の2万5598ドルから下降曲線に変化し、現在も継続しているこの曲線が、横ばいから上昇曲線に変化すると、株価は明らかに反転サインと確認できる。2つ目の条件はNYダウの今年の安値を記録したのが、3月23日2万3533ドル、6月27日2万4117ドル、10月29日2万4444

## 相場展望

2ドルと底値を明らかに切り上げ、急落後の株価上昇に寄与している。当面この2つのテクニカルを注視する必要がある。

## 購読会員募集中!

証券市場新聞では、購読会員を募集しています。

高野恭壽の  
株式情報 **これでどや!!**

大阪で600人越えの集客を記録、アンケート調査で「是非聞きたい講師」全国第1位  
人気株式評論家 高野恭壽の株式マガジン!

<https://marketpress.jp/kabu-takano/>

証券市場新聞 公式メールマガジン

優良銘柄に加えて新興銘柄のタイムリーな限定情報が満載!

<https://www.mag2.com/m/0001678061.html>

今週の

# 活躍期待銘柄



## 神戸物産 (3038)

### 業務スーパーの好調つづく

神戸物産は10月30日の安値2734円を底に上昇基調が継続、10月10日の高値3285円を抜けたことで2015年7月24日に付けた最高値3467・5円を目指す動きが期待される。冷凍食品など食材販売の「業務スーパー」をFC展開、輸入食材を多く取り扱うことから足元、1ドル114円から112円台へ円高方向となっていることは追い風となる。関東エリアへの出店を中心に新規出店を進めると同時に、老朽化してきた店舗の移転等をFCオーナーに提案。

災害で野菜価格が高騰するなか、冷凍野菜や冷凍果物の販売が伸びており、積極的なPB商品投入効果も奏功、現在集計中の前18年10月期は連結営業利益で150億円(前期比2・7%増)達成が見込まれ、今期も増益が予想される。(と)

### 15年の最高値突破に期待



## キャリアインデ (6538)

### 大幅増収益で最高業績続く

キャリアインデックス(6538)は2カ月にわたる1500円がらみでの高値保ち合いを上放れ、青空相場を一段高に向かってきた。転職情報サイト「CAREER INFORMATION」スクール情報サイト「CAREER INDEX スクール」など集客プラットフォーム運営会社で、求人サイト運営会社や人材紹介会社、人材派遣会社との提携を進めることで急成長。19年3月期も単独売上高27億7200万円(前期比15・6%増)、営業利益10億1000万円(同32・7%増)と大幅増収増益で連続最高業績更新を見込む。さらに、アイデムやインターワークス、日総工産などの求人・転職サイトと矢継ぎ早にアライアンスを拡大、通期計画は上振れが期待できる状況だ。

中小型成長株物色が盛り上がるなか、噴き値局面に近い。(さ)

### 矢継ぎ早にアライアンス拡大

# 日経平均は2番底形成

## 高野恭壽の株式情報 これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

11月第4週も波乱の動きになりました。この欄を執筆している21日の東京市場で日経平均は米国株式が10月安値とほぼ並ぶところまで大幅に下落したことをみて半導体系など外需系銘柄が寄り付きから一段安となり、300円近く下げ2万1286円

で始まりまして。しかし、これを安値に半導体などに強い戻す動きが強くなり、次第に下げ幅を縮小する動きが強くなり、その後は戻す動きに転じました。前日に高値引けとなった東京電力ホールディングス

## Vテク 2万円回復を期待

は高く寄り付いた後は利益確定売りに押され逆に下落する動きになったものの、値を保つていました。原油価格がニューヨーク市場で昨年の10月末水準の52ドルまで一段安となったのですが、運輸、海運、空運なども東電HDと同様に逆に安くなりました。原油価格の低下メリットのある化学は東ソーが続伸となるなどしつかりした展開になっていました。

日経平均は10月安値に対する2番底を形成する形になり、同様の動きをみせた村田製作、SUMCO、東京エレクトロンなどは寄り付き安から軒並み反発に転じました。先週から売られては反発する動きを繰り返しながらなかなか上値を迫らない動きが続いていましたが、この日も同じ動きになったことになり、問題は週明けの相場でも続けて上値を迫るかどうかが焦点になります。この日の反発は力強さを感じられませんが、更なる戻りを試すのではないかと考えられます。

0円で引きました。上値追いに拍車がかかっていくものと思われ、順調にあげれば2万円回復も可能かとみています。アンジエス(4563)は新株引受権の行使が進んでいる状況で、全部完了したわけではありません。大体、4割程度まで進んだ状況です。まだ本格的な上値追いは難しい状況のようです。したがって、上値を買わないで突込み場面を待って仕掛ける作戦を断行してください。今回の狙いは日本板硝子(5202)、富士通ゼネラル(6755)です。



高野恭壽公式ホームページ  
高野恭壽の株式市場情報  
これでどや!!  
<https://marketpress.jp/kabu-takano/>  
毎日情報を配信中!



# 星野三太郎の 株街往来

～良い船出を期待～

JR九州以来の大型上場とあってソフトバンクの新規公開には証券会社も積極的に営業を仕掛けていくようだ。通常、発行済株式数が少ないマザーズやジャスダックへの新規公開企業は、公開前のブックビルディングに参加しても、当選する確率は極めて低い。その代わりに公開日の初値では公開価格を上回る可能性が高いから、当選して初値で売却すれば高い確率で利益を確保することが可能だ。

ただ、大型上場となると売り出し株数が多くなるから当選する確率も高くなる。半面、上場初日に売却を考える投資家も多くなるから、初値がどうなるかは予測が付かない。因みにJR九州は公開価格2600円に対して初値は3100円、現在も3500円台だから長期保有しても含み益を確保している。

筆者のところにも「どう思う？」との問い合わせが数人の知人からあったが、誰もが知る企業だから、その企業に対する愛着や経営者への信頼感など判断材料は投資家ごとに異なると思う。ブックビルディングで購入して上場後に利益確定した銘柄は、数年経過しても良い印象でその企業を見てしまう。願わくばソフトバンクも良い船出を期待したい。



## US 長編アニメ映画「グリーンチ」

### 記念イベント「ミニオン・パーク」で開催

企業レター



公開記念イベントに登場した大泉洋さんと横溝菜帆ちゃん

ユニバ  
ーサル・  
スタジオ・  
ジャパン  
は、11  
月16日  
に、ミニ  
オン、を  
生んだハリウッドの名ス  
タジオ、「イルミネーション  
・エンターテイメント」  
の最新長編アニメーション  
「イエロー・クリスマス  
」としてミニオンカラー  
の、イエロー、装飾がハ  
チャメチャに彩られた大  
人気エリア「ミニオン・  
パーク」に、横溝菜帆ち

やんがミニオンを連れて登場。菜帆ちゃんのため  
に用意されたこの日だけ  
の特別なイエロー・クリ  
スマス・パーティをスタ  
ートして盛り上がりを見  
せると、「ちよつと待った  
ー！」の声とともに、映  
画「グリーンチ」の日本語  
吹き替え版を担当する大  
泉洋さんと、世界初登場  
の「ベイビーグリーンチ」  
がサプライズ登場。会場  
に詰めかけたゲストから  
割れんばかりの拍手と大  
歓声が巻き起こった。  
大泉さんの「メリー」  
の掛け声に続き、菜帆ち  
やんはじめ、会場のゲス  
トが「グリーンチマス！」  
と発すると、グリーンチの  
バルーンやコンフェティ  
(紙ぶぶき)やパフボール  
などがエリアに飛び広が  
り、ミニオンたちがハチ  
ヤメチャに飾り付けた「イ  
エロー・クリスマス」を  
盗み、あたり一面をグリ  
ンチのカラーである、グ  
リーンに一変させた。  
「ベイビーグリーンチ」に  
毎日会うことができる世  
界で唯一のスペシャルグ  
リーディングはクリスマス  
期間中のみ1日数回パ  
ーク内で開催される。

敬院先物ディーラー

ハチロクの裏話

高水準な空売り比率

一方通行にはなりにくい

先週の日経平均は23日が休日だったため、立ち合いは4日間となった。この4日間でも

「上がれば売られるし、下がれば買われる」といった相変わらず方向感の無い展開であった。21日に前日の海外マーケットが崩れ、その影響で日本の相場も大幅安で寄り付いたが、終値ベースでの直近安値(2万1149円)を割らずに2万1500円台まで上昇したことを見ると下値では買いが入ってくるようだ。しかし、2万1900円に近付くと売りが出てくるようである。2万1500円前後が居心地のいい水準のようである。現在、空売り比率は45・2%と10月5日以来37日連続で40%以上の日が続いている。4%以上の日は7日連続となつている。今年7月30日からの9月12日まで33日連続40%以上というのが

あつたが、その記録を更新

今週のスケジュール

- ・23日 博覧会国際事務局(BIE)総会で大阪が立候補している25年万博の開催国が決定  
米ブラックフライデー
- ・25日 英国のEU離脱を承認する臨時EUサミット開催
- ・26日 独11月Ifo景況感指数(18:00)
- ・27日 10月企業向けサービス価格指数(8:50)  
米11月CB消費者信頼感指数(28日0:00)
- ・28日 米7-9月期GDP改定値(22:30)  
米10月新築住宅販売件数(29日0:00)
- ・29日 10月商業動態統計(8:50)  
米10月中古住宅販売仮契約(30日0:00)  
11月7・8日開催のFOMC議事録
- ・30日 10月労働力調査・有効求人倍率(8:30)  
10月鉱工業生産(8:50)  
11月消費者態度指数(14:00)  
中国11月製造業PMI(10:00)  
G20首脳会議(~12/1アルゼンチン)、米ロ首脳会談、及び日米首脳会談・日ロ首脳会談の可能性

している。9月の時は連続記録が途切れてから株価は1800円上昇した。空売りのエネルギーが溜まっていったため、理由なき上昇となったわけだ。今回もかたりのエネルギーが溜まっており、一旦上昇波動に入ればそれなりの株高が期待できる。その水準はまず11月12日の窓埋め(2万2046円)であろう。この水準を明確に超えてくれば、2万2500円までは早いと思うが、どうも2万1900円処に位置する上値抵抗ラインを抜けてこれていない。2万1900円処には下降してきた25日移動平均線も位置し重要な水準である。また、その下に位置する一目均衡表の転換線(2万1783円)も抵抗線として意識されそうである。一方、下値は10月29日の終値(2万1149円80銭)が重要である。この値を割ってくると、下げに拍車がかかりそうである。ただ、今週は週末のG20日を控えているために一方通行にはなりにくいと思われる。先週に続き「戻り売りの突っ込み買い」で対処した(ハチロク)

編集後記

日産ゴーン会長逮捕、NY株急落など下押し要因が多かったにもかかわらず、東京市場は底堅く推移した。米半導体関連株見直しの流れが波及したことが要因だが、リーマンショック以降、米国株をリードしてきたアップル株に底入れの兆しが見えてくるようなら、年末高へ期待が高まるだろう。ハイテク株の出直りは個人投資家の心理に影響を与え、中小型成長株への物色意欲を盛り上げており、低位株にも動きづく銘柄が増えている。師走相場での銘柄選択が楽しみななってきた。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。